

⑦ IoT Connect Mobile™

グローバルなIoTビジネスの展開を実現する
モバイル通信サービス「IoT Connect Mobile™」

IoTにおけるデータの「収集」において必要不可欠となるネットワーク。NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）が新たに提供開始した「IoT Connect Mobile™」は、eSIMにより1つのSIMで世界196の国と地域で利用することができる、IoT向けの新しいモバイル通信サービスだ。

eSIMにより現地通信事業者と
変わらない水準の料金・速度を実現

NTT ComはeSIMの仕組みを採用したIoT向けの新しいモバイル通信サービス「IoT Connect Mobile™（以下、ICM）」を提供開始した。

eSIMとは何か？ 現在市場では2つの意味で解釈されている。1つは「組み込み（= embedded）」型のSIM。そしてもう1つは「リモートでのプロファイル管理（= eUICC）」に対応したSIMを指す。NTT Comでは2017年より実証実験に取り組み、2019年4月に日本のMVNOとして初めてeUICCに対応したモバイル通信サービスを商用化した。

従来のSIMは、SIM内のプロファイル内にキャリア情報が書き込まれており、利用する国で現地通信事業者のネットワークを利用する場合には、現地事業者と契約したSIMに差し替える必要があった。これに対し、eUICCに対応したNTT ComのICMは、利用する国・地域に対応した通信プロファイルを選択することで、SIMを差し替えることなく合計196の国と地域でネットワークを利用することができる。

携帯電話事業者が提供する

ローミングサービスでも国外でのネットワーク利用は可能だが、通信料金が割高となることが課題であった。ICMは現地の通信事業者と同水準の低廉な通信料金で利用できることも大きな強みである。

また、現在欧州・アジア・米国にそれぞれゲートウェイを設けており、トラフィック送信国により適切に使い分けることで遅延を解消。ディレイ・センシティブなIoT機器の通信にも対応している。

IoTの運用に最適なポータル

提供するWebポータルでは、SIMの管理だけでなく、通信ポリシー制御ができることも特徴の1つだ。月間の通信データ量をあらかじめ「10MB」などと定めておき、上限に達した際に通信を停止させる

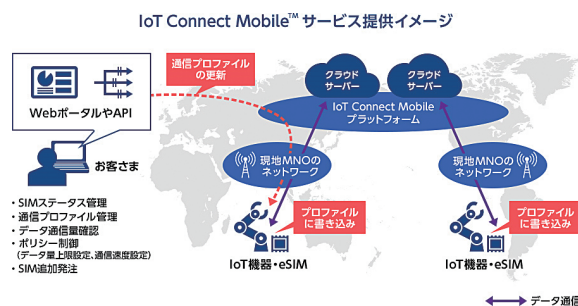


図1 IoT Connect Mobile™ サービス提供イメージ



NTTコミュニケーションズ株式会社
ネットワークサービス部 販売推進部門 MVNO 担当
[左から] 曾我部 一樹氏、小川 瑞希氏、山本 陽一氏

ことができるので、想定外の通信により膨大な料金が発生してしまうリスクにも備えられる。

eSIMの普及は始まったばかりだが、2022年にはセルラー型IoT通信の約4割がeSIMでの接続になるという予測もあり、今後のIoT普及にとって欠かせない要素であることには間違いない。本サービスにより、NTT ComはIoT機器を「モノ」としてだけでなく、ネットワークを介して行われる「サービス」として提供する、製造業を中心としたお客様のデジタルライゼーションに寄与できると考えている。

現在、2020年に予定しているフルMVNOに対応した国内向けプロファイルの提供に向け、準備を進めている。今後も企業のIoTビジネス展開がよりスムーズとなるネットワークサービスやプラットフォームの開発を推進していきたい。